

激増する海外旅行とともに、海外修学旅行も、高等学校を中心に増加しつつある。文部省が調査した昭和六十三年度の調査によると、海外修学旅行の実施状況によると、二年前に比べて大幅な増加を示し、年間五万名（高校の修学旅行対象者百八十万名の三割弱）を超えた。

さて、海外修学旅行での最も重要な課題は、安全性的確保である。二年前の高知学芸高校の苦い体験は、大きな犠牲の上に、海外修学旅行の基本的視点を端的に見聞するものが多いにもかかわらず、現地の高校生との交歓会などが行われ、言葉のハンディを超えて、同じ世代の心

海外修学旅行について考える
時
言

編集委員 中島和友

の交流がなされたら、生涯のよい思い出としてだけなく、国際親善に果たす役割は大きいということである。

第三は、我が国の文化の理解と尊重である。他国の人々を理解することは、我が国の自然や文化への関心と理解につながるという考え方である。

今日、高校生が新聞を広げたときでも、コスメの自由化などの貿易問題や、イルカの捕獲などの漁業問題等、対日非難にかかるものを見つけることができる。

その第一は国際化の進展への対応である。第二には、国際理解の推進である。他

の、あえて海外に行先を求めるなどの教

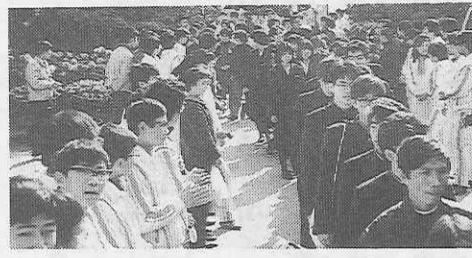
育的意義をまず明らかにする必要があ

る。文部省が調査した昭和六十三年度の調査によると、海外修学旅行の実施状況によると、二年前に比べて大幅な増加を示し、年間五万名（高校の修学旅行対象者百八十万名の三割弱）を超えた。

さて、海外修学旅行での最も重要な課題は、安全性的確保である。二年前の高

知学芸高校の苦い体験は、大きな犠牲の上に、海外修学旅行の基本的視点を端的に見聞するものが多いにもかかわらず、現地の高校生との交歓会などが行われ、言葉のハンディを超えて、同じ世代の心

昭和63年度 高校の国際交流状況 文部省が調査



海外修学旅行中には現地校との交歓会も

文部省は、昭和六十三年度における高等学校の国際交流等の状況について調査を行った結果を発表した。この調査は昭和六十二年に初めて実施され、今回は第二回目である。

調査項目は次のとおり。

(1) 外国人への修学旅行について

(2) 姉妹校提携について

(3) (2) 外国への留学について

(4) (3) 学年をまたがる留学に係る

学生の身分等の扱いについて

(5) 生徒の外国への研修旅行について

(6) 外国人留学生の受け入れについて

(7) 外国語における英語以外の

（三か月以上の者）

（三か月未満の者）

（三か月以上の者）

